

広川町協働推進計画原案 パブリックコメント回答予定一覧

◎意見募集期間

平成27年 1月19日(月)～平成27年 2月 6日(金)

◎応募意見状況

意見要旨は、上記意見募集期間内に書面で出された意見と2月1日(土)に実施したパブリックカフェ(意見交換会)の中で出された意見を掲載しています。

①意見応募者数 3名

②パブリックカフェ参加者数 17名

③意見件数 64件(パブリックカフェ時の意見交換内容を含む)

該当箇所 (意見項目)	No	意見要旨	町の考え方・対応
計画全般 (推進のための意見)	1	町内だけで考えるのではなく、広域的な人材活用と情報共有が大切。	貴重なご意見として、今後の取り組みの参考とさせていただきます。
	2	出されている施策はいいことはわかっている。しかし、取り組むのは難しい。	協働のまちづくりは、一人だけでは出来ません。多くの方が、その趣旨をくみ取って頂き、一緒になって取り組むことが大切です。そのためには相互理解が必要であり、時間もかかるものだと考えています。しかし、一步を踏み出さねば、新たな未来はないと考えますので、難しいと思われる施策でも、その実現に向けて努力したいと考えています。
	3	計画案が立派であるが、施策については、実現するための方法をもう少し考えてもらいたい。	計画実現に向けた具体的な取り組みについては、いrownなところで協議検討が必要になります。今後、計画推進のための会議等を設置するなど、施策実現に向けた具体的な実施計画を示していきたいと考えています。
	4	協働のまちづくりを進めるため、地域コミュニティ独自の活動の活性化やボランティアセンターの役割が重要視されていることを痛感した。	地域コミュニティとNPO・ボランティアは本町における協働推進の両輪であり、この両者の関わりは重要だと考えています。
計画全般 (用語に対する意見)	5	「自立」ではなく「自律」をあえて使った訳は？(文言の整理)	協働推進計画策定委員会では、第4回の委員会で、この件に関して協議を行いました。(ホームページ掲載協議録参照) 「自立」は経済的面で独り立ちすること「独立」の意味が強く、一方「自律」は自らの意思で行動する「自治」の意味があることから、本町の計画にふさわしい「じりつ」は「自律」としました。
	6	「自律」は「自立」という表現もありますが、意識的に「自律」という言葉を使われていることが読み取れます。	【検討事項】

		「自律」と「自立」で「自律」をあえて使う理由を入れたら	
	7	市民公益活動団体とは何か？（文言の整理）	計画書15頁に「市民公益活動団体とは」と解釈を記載しています。
	8	住民自治や地域コミュニティという言葉はわかり難い。	「地域コミュニティ」については、計画書14頁に「地域コミュニティとは」と解釈を記載しています。
	9	言葉が難しくてイメージがわからない。	出来るだけわかりやすい表現に努めましたが、どうしても行政計画であることから、行政用語等、町民の方にはわかり難い表現もあります。出来るだけ注釈を入れるなど対応を検討します。 【検討事項】
	10	文章が難しい。少し理解しにくい。	同上
	11	全体的にわかり難い文言等は下段に注釈を付けてはどうでしょうか？	同上
計画全般 （アイデアの提案）	12	区で子どもや高齢者の見守り（ボランティアグループを作って取り組む）→声掛け・集めること難しい。→隣組単位で	貴重なご意見として、今後の取り組みの参考とさせていただきます。
表紙 （タイトルの表記及び挿絵について）	13	・サブタイトルの加筆（むしろ「広川町協働推進計画」をサブタイトルでも） ・協働推進計画→サブタイトルを考えよう（なじみやすい名称） ・広川町協働推進計画の名前が難しい。サブタイトルとして、もっとわかりやすいロゴを使ってPR。	【検討事項】
	14	協働推進計画のサブタイトルを馴染みやすい名称で作ったらどうか	同上
	15	タイトルはわかりやすく、サブタイトルを「協働推進計画」としたらどうか。	同上
	16	絵の人物を多くの世代の人物にする	【検討事項】
	17	シンボルマークを考えたらどうか	同上
計画3頁 （計画の目的について）	18	4行目に「行政だけでは対応できないため…」とありますが、「行政だけでは限界があり…」とした方がいいのでは？本来行政が担うことを色々やってきた結果としての現在だから、「対応できないため」と表すより「限界があり」の方が切実味があるかなと思うのですが。	「対応できない」という表現は、行政側の逃げの言葉に取られる様にも感じますので、ご指摘のとおり訂正いたします。 【表現の訂正】
計画5頁 （委員名簿）	19	委員名簿の大竹正二氏の肩書きに「NPO」とあるが、「NPO法人」とすべき。法人格のあるなしは、信用度に関わる。	ご指摘のとおり訂正いたします。 【誤記の訂正】
計画8頁 （行政における協働の現状と課題について）	20	計画書全体としてNPO団体やボランティアの充実はさらにヒシヒシと感じましたが、行政職員の意識の変革の為の努力や現状がこの9行の文章では見えてきません。（P21、P22では取り組みを謳ってありますが）財政、人員の不足もよくわかりますが、政策調整課（事務局）がいくら変わっても、職員全体のものにし	貴重なご意見ありがとうございます。行政職員の意識改革は道半ばであり、今後も時間かけて進めて行く必要があります。まずは、行政参画の仕組みづくりを進めることで、町民との対話が進められ、交流が進むことで改革が進むことに期待しています。

		ていく努力をしなければ、対等の関係で“協働”することは出来ないのではと思います。(行政の縦割りの良い部分も使って) 幹部・財政部局からの発信も必要。	
計画 9～10 頁 (協働の課題について)	21	課題のまとめは、1～5 まで大変重要なことで、しっかりとまとめてありました。	ありがとうございます。
計画 13 頁 (広川町の協働について)	22	協働の意義が判らなかつたが、「1 人で出来ないから一緒にやる」という文言ですっきりした。	“協働”という言葉は、まだまだ浸透した用語ではありません。協働推進計画策定委員会の中では、この言葉がふさわしいとして表記しました。協働のまちづくりは、決して一人では出来るものではありません。多くの方がそこに参加するまちづくりを目指していきたいと考えています。
	23	協働の形で、「活動する協働」と「発言する協働」という形で2種類あって、「発言する協働」も協働なんだと理解できてよかった。つまり、関心を持つことも協働であると再認識した。	“協働”については、様々な解釈がなされています。広川町では、多くの人がまちづくりに関わりを持ってもらうことを重視し、参画することも「発言する協働」として捉えました。
	24	「協働とは」は図など入って非常にわかりやすかった。	ありがとうございます。
計画 20～21 頁 (基本施策 1:町民と行政との情報の共有化の推進について)	25	地域には情報が伝わりにくい。	情報の共有化は、以前より言われていたことですが、なかなか実現が出来ません。この背景には、伝える側の努力不足(発信者の意識)と受ける側の関心(受信者の意識)、両方にあると考えます。計画案では、「あらゆる形での情報発信」を提示し、その仕組みづくりまで提言しています。また、意識啓発も進めることとしました。
	26	NPO・ボランティアの認知度を上げるのは、情報発信が重要。	そのとおりでと思います。
	27	情報の共有化については、「伝わらない部分」については、慎重にしっかりと進めていく必要があると思いました。	計画 25 頁で「協働推進のための仕組みづくり」において、「わかりやすい情報発信制度の検討」と「積極的な情報発信の在り方の検討」を進めることを提示しています。ご指摘のとおり、慎重に進めて参ります。
	28	・久泉のメールやその他の取り組みが素晴らしい! ・久泉のメール配信には感心した。	こうした地域独自の取り組みが広がることを期待しています。
計画 21 頁 (子ども向け意識啓発ワークショップの開催について)	29	小中学生のボランティアの体験が大人になっていつかボランティア活動の目或いは地域コミュニティの活性化に繋がってくるのではない。	今回、中学生に対して、まちづくりワークショップを開催し、自分たちで出来ることに「ボランティア」ということを多くの子ども達が意見を出しています。こうしたワークショップを今後も続けて行きたいと考えています。
計画 21～23 頁 (地域コミュ	30	隣組を先頭に交流を深めたらいい。	貴重なご意見として、今後の参考にさせていただきます。

ニティの活性化について)	31	隣組の活用。原点は隣組。	同上
	32	絵に描いた餅にならないように区での仕組みづくりが必要。	同上
	33	地域で出来ることには差がある。ある地域では現在でも難しい。	そうした実態も承知しております。だからこそ、様々な形での協力・助け合いが必要だと考えています。
	34	内容（やれること）ができない行政区もでてくるのでは？	同上
	35	行事でも活動でも、継続することで地域の活性化に繋がる。	地域活動は重要だと考えています。その継続が難しいところも出てきていますので、そのために何が必要なのか考えて行く必要があります。
	36	まちづくり委員会には若者がいない。若者は関わりたくない。無関心。目立ちたくない。	そうした無関心者をどう取り込んでいくのかは今後の課題です。多くの方に関心を持ってもらう様、意識啓発を進めます。
	37	現在、地域コミュニティに興味がない、面倒くさいなどでまちづくりに参加しない若者が増加しているが、どう関わってもらうか？	同上
	38	・リーダーを作ることが大事。 ・先導するトップが必要（いないと迷う）	そのとおりだと考えます。今後は人材発掘や人材育成も重要になってきます。
	39	地域性や住民の方の意識が異なることを踏まえた活動が重要だと考えます。	ご指摘のとおり、地域の活性化には、地域の特性を踏まえた活動が重要だと考えます。
計画 23～24 頁 （市民公益活動の推進について）	40	ボランティアはきっかけが必要。	きっかけ作りも必要になると考えます。
	41	ボランティア活動の活発化のために、はなやぎの里、新しい図書館の活用	市民公益活動の場として、はなやぎの里やいこっと図書館での活動は十分考えられます。
	42	NPO、ボランティアの認知度を上げていかないといけない。	情報の共有化に努力します。
	43	ボランティアセンターについて、自分から発信して、いろいろなボランティアさんを養成する。	計画では 23 頁に「ホームページによる情報提供」など様々な形での情報発信や、「NPO・ボランティア活動に係る相談窓口の充実」及び「ボランティア団体登録の促進」を提示しています。
	44	ボランティアの重要度がとても高い案だと思います。協力者を掘り起こすための情報の発信、提供が大切だと思いました。	ご指摘のとおりです。本計画でも情報の共有化は重視しています。
	45	ボランティアに期待が大きすぎでは？今から拡充の必要性を大きく感じた。	ボランティアへの期待は高まっています。こうした市民公益活動の拡充のためには、地道な取り組みが必要だと考えます。今後ともご協力をお願いします。
計画 23 頁 （ワンストップ窓口の創設について）	46	ボランティアセンターのワンストップ窓口って何？	町民が抱える課題が複雑多様化する中で、相談内容も多様化している。そうした様々な相談内容を一つの窓口で解決できるようにするものです。
	47	ワンストップサービスは、行政の仕事だろう。ボランティアでは無理。	【検討事項】
	48	ワンストップ窓口を何処に設置するのか？地域課題の相談まで可能なのか？	同上

	49	地域課題に対する相談は行政ではないか？	同上
計画 23 頁 (ボランティアセンターのスキルアップについて)	50	ボランティアのスキルアップ→「できる事はしたい」という人がいるはず。→呼びかけ働きかけがなされていない。→受け身の受付	ボランティアセンターでは、各種勉強会を開くなど、スキルアップの取り組みも進められています。ボランティアの呼びかけについても、広報等による情報発信のほか、各種団体を通じた情報発信など対応は進められています。受ける側の関心も上げる必要があると考えています。
	51	ボランティアセンターの役割の認識を深め、スキルアップしていくことも重要だが、行政は「安価な活動力」と位置づけられることがないように留意も必要。	そこが協働を進めるための原則となる「相互理解」や「対等」な関係である必要があるのだと思います。推進計画では謳い込んでいますが、このことがちゃんと守られるよう職員研修も必要であると考えています。
計画 24～25 頁 (協働推進のための仕組みづくりについて)	52	町民の行政参加を増やすには、参加者に行政職員や地域役員が増えると増加すると思う。	行政参加には、当然、行政職員の参加も必要です。性別に関係なく、多世代の幅広い年齢層で、異なる職種というように、多様な考えを持った人々が集まれば、さらに議論が深まります。多くの町民が参加される様、まちづくりカフェ等の参加しやすい場所づくりにも努めていきます。
	53	協働推進計画を実現するためには、その推進の仕組みづくりが大切だと思います。各行政区にはまちづくり委員会があるので、そこを活用した仕組みづくりが良いのではないのでしょうか。	貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。
	54	地域の活性化のためには、意欲を持った潜在的人材を発掘することや転入してきた新しい住人の力を借りることを怖れないことが重要であり、古くから住んでいる住人の意識改革、役員そのもののあり方(意識と知恵)なども不可欠と感じた。	地域の活性化には、そこに住む住民だけで取り組んで出来るものではありません。地域を超えた交流が必要だと考えます。そういった意味では、地域コミュニティの力だけでなく、NPO・ボランティアといった地域に捉われず自由に活動されている人々の受け入れも大切だと思います。意識改革は、住民だけでなく、行政職員も必要です。
計画 25 頁 (まちづくりカフェの開催について)	55	カフェには参加者に行政職員や地域役員が増えると課題に現実味をおびる。	多様な人々の参加がまちづくりカフェには求められます。今後もこうした取り組みを進めて参りますので、是非、次回も参加ください。
	56	カフェづくりって素晴らしい(おもしろい!)	ありがとうございます。今後もこうした取り組みを実施しますので、次回も是非ご参加ください。
	57	まちづくりカフェでは、いろんな方々とお話して、身近なところから自分にできることを学ばせてもらったので良かった。	同上
	58	集まって話せる場所は、とっても必要であるので良いと思った。	同上

	59	会話できる場所は大切	同上
計画 25 頁 (課を超えた組織の連携について)	60	基本施策 5 の課を超えた組織の連携は、是非、実現してほしい。 地域づくり、まちづくり、いろいろな課や係が取り組んでいらっしゃいます。同じようなことを何度も…どこも…ではなく、みんなでまちづくり、地域づくりを同じ目線と同じ速度でやってほしい。	縦割りの対応でなく、組織間の連携は、以前より求められている部分でもあります。ここも行政職員の意識改革が求められる部分であります。時間はかかるかもしれませんが、一歩ずつ前進したいと考えております。
計画 26～27 頁 (協働の取り組みのアイデア)	61	大人と子どもがいっしょにカフェをやったらどうか。子どもと交流。	貴重なご意見として、今後の参考とさせていただきます。
	62	まちづくりカフェなどを各行政区で、いろいろな年齢を考えて意見を出し合う。	同上
計画内容外 (その他)	63	高齢者対策は次が必要。 1. 情報の収集と発信：行政（町・区）は情報の収集と発信を 2. 生活支援：日常生活の支援 3. 活動の活性化：老人会の活動 4. 生きがい：食（栄養）動く（運動・筋力） 5. 声掛け：声掛け・誘い合う運動	同上
	64	ストレートに上広の広川ダムの近くに女性刑務所の誘致はどんなでしょうか。これは更生保護女性会で鳥栖の女性刑務所見学の折に、「今、日本には女性刑務所が少なくて困っている。」との事でした。何度かこの話について聞かれたことあるかと思いますが、そうすれば、地産 に良く聞けば、税金も少なくて良いと伺っています。町が単独で行くには、これはとっても良いことではないかと思います。どうぞ、皆様の素晴らしい知恵をだされて実現に持って行ってください。 もう一つ、広川町の宣伝が少ない。せっかく天皇杯のいちごがあるから、天皇杯いちごの町でも良いと思います。大きな文字で宣伝をお願いします。何かをやっている町の印象を持ち出して下さい。	この内容は協働推進計画に関すること以外の内容ですので、まちづくりに対するご意見として伺っておきます。